

奈良印良品

～キラリと光る 人・もの・知恵～

VOL.5



日本一のシェア(80%)を誇るメリヤス針とは、どのようなものですか。

セーターやカットソー、下着、靴下などのニット製品を機械で編むための針

▲柴田修社長(左)はメリヤス針の模型、柴田健司常務(右)は「元気企業300社」の盾を手に、「一針入魂」という言葉には、「どんな小さいものでも魂を入れて作る」という強い気持ちが込められている。

メリヤス針で、世界の衣料を支える

葛城市に、ニット製品を編むメリヤス針のトップメーカーが！
海外でニセブランドが出るほどに(！)その名を知られる「シバタの針」とは。

です。長さは5〜15cmくらいです。厚さ0.4mmの鋼を型で打ち抜き、ラッチ(糸をかける部品)用の溝を削ります。この溝にラッチをはめ、左右から圧力をかけて固定します(左図参照)。高熱を加え急冷する過程を経て、硬くしなやかな針に整えたら、表面を磨き、ひずみを修正して仕上げます。

多くの工程があるんですね。

70工程を約50人で、4班に分けて行っています。針は、全て目で見て検品しています。編む時に糸がひつかからないよう、小さなキズやひずみも見逃せません。お客様に安心して商品を使ってもらうには、細部まできちんと作って、信頼性を高めることが大切ですね。

近年減少しているメリヤス針会社。生き残りの秘訣は？



▲メリヤス針

大企業に対抗して「種類を少なく、大量生産」するのではなく、「お客様本位」に、「少量多品種」の商品開発をしてきたことでしょうか。

また、「他社と同じ設備では他社と同じものしか作れない」と気づき、針を作る機械も自社で工夫してきました。

海外のメーカーとも取引されていますね。

製品の7割は、海外へ出荷しています。インターネットを見て、中国やトルコ、北アフリカなどのニットメーカーから注文がくるんですよ。実は、海外で当社のニセブランドが出ています。複雑な気持ちですが、「シバタの針」が信頼のブランドとして世界で認知されているというのは、やはり嬉しいですね。

若者へのメッセージをお願いします。

「なぜ働くのか」ということを突き詰めて、仕事をしてほしいですね。当社



▲丸編み機に針をとりつける
糸をかけて丸編み機を作動させると上から下にニットが編める



では、衣食住の「衣」を支えているという自負があります。これは、お金にはかえられない価値です。自分の仕事の中に、そういったエッセンスを見つけたら、仕事にやりがいが出てくるのではないのでしょうか。

シバタ製針株式会社

〒634-0137 葛城市南通穂137
0745・69・2281
0745・69・5400
www.shibata-needle.jp/

創業以来、メリヤス針ひとすじのシバタ製針。新しい糸が出ると、新しい針の開発が必要になるそうです。社長は取材陣の服の布地にも興味津々の様子。好奇心とニットにかけるプロのこだわりが、会社を大きく飛躍させているのでしょう。